

## 平成 28 年度 第 3 回 甲賀市環境審議会 議事摘録

---

開催日時 平成 28 年 10 月 25 日（火） 10：00～12：00

開催場所 あいこうか市民ホール練習室 3

出席委員（敬称略）

竺文彦（会長）、猪飼俊江（委員）、家森和子（委員）、小林晶子（委員）、  
谷口秀治（委員）、門坂肇（委員）、中本博之（委員） 7 名

欠席委員（敬称略）

平木隆久（委員） 1 名

事務局（敬称略）

保井部長（市民環境部）、藤村次長（市民環境部）、村田課長（生活環境課）、  
前田課長補佐（生活環境課）、伊東係長（生活環境課）、山本主査（生活環境課）、  
谷口主事（生活環境課） 7 名

会議次第

- 1 市民憲章唱和
- 2 あいさつ
- 3 審議事項  
第 2 次甲賀市環境基本計画（素案）について
- 4 今後の予定について  
第 2 次甲賀市環境基本計画（案）の答申  
パブリックコメント（総合計画の進捗状況と調整）  
第 4 回甲賀市環境審議会について（3 月頃）
- 5 その他

配布資料

- 資料 1 第 2 次甲賀市環境基本計画修正箇所一覧
- 資料 2 第 2 次甲賀市環境基本計画（素案）
- 資料 3 第 1 次甲賀市環境基本計画の各年度実績
- 資料 4 甲賀市の環境概要（平成 27 年度版）

## 会議内容

### ●開会

- 1 市民憲章唱和
- 2 あいさつ（会長）
- 3 審議事項

- ・ 以後の議事進行は笹会長へ。

（会長）

- ・ 実質本日が最後の審議になるので、第2次甲賀市環境基本計画（素案）について、前回までの検討を踏まえつつ、本日の検討を進めたいと思う。
- ・ 事務局から計画書（素案）について説明をお願いしたい。

（事務局）

→ 資料1～資料4に沿って素案の説明

（会長）

- ・ 事務局からはまとめて資料説明があったが、資料1で前回の指摘事項の修正点について確認を行った後、計画全体について再度検討し、その後、資料4の環境の概要についてご意見をいただく順番で進めたい。

#### (1) 第2次甲賀市環境基本計画（素案）について

（会長）

- ・ 目標指標について事務局から説明があったが、アンケート結果による市民の周辺環境に対する満足度 3.33 を 5% 上げるとするのがわかりにくい。また、前回は、身近な環境の満足度に関する質問項目のうち 1 項目だけを指標として取り上げていたが、前回での意見を踏まえて、全項目の平均値をとったという理解でいいのか。

（事務局）

- ・ 前回審議会でのご意見を踏まえ、全 16 項目の平均をとっている。

（会長）

- ・ アンケートは平成 28 年に実施とあるが、それを平成 27 年度の基準値として用いるのか。

（事務局）

- ・ アンケートは平成 28 年 1 月に実施したのでそういう記載となっている。わかりにくいので、平成 27 年度に修正を行う。

(会長)

- ・ 市民の満足度指標 3.33 の説明をきちんと記載すべきであろう。

(委員)

- ・ 他の目標指標は%で表記されているので、もし可能であれば、%表示で示す方がわかりやすいのではないかと。%表示にするために、複雑な計算をしなければいけないのであれば、これでもいいかと思うが。

(会長)

- ・ 一般の方が見た時に 3.33 を 3.36 にするといっても、誤差の範囲のように取られてしまい、わかりにくいので再検討した方がいいだろう。

(委員)

- ・ 市民の環境に対する満足度の評価点の隣に、満足度の円形グラフを追加すれば、どれくらいの人が満足をしているのかがわかりやすいのではないかと。

(事務局)

- ・ 5段階評価を 100 に換算するなど、わかりやすい表現を検討する。

(会長)

- ・ 市民の環境に対する意識という項目がマイナスの評価になっているが、どういう質問をされたのか。

(委員)

- ・ どちらでもないが 3 点で、やや満足が 4 点となっているが、3.33 を 3.39 に上げることにより、どれくらい満足度が上がるのか。どちらでもないと回答した人が増えて、満足度が若干上がるというのならそれでいいのかどうか。また、目標値として 5% のアップでいいのかという気がする。

(委員)

- ・ そうであれば市民の環境に対する意識をあげるほうがわかりやすいのではないかと。4 年後に同様の項目でアンケートを実施しても、平均してしまうと満足度は大してあがらないだろう。5 段階評価だとどうしても 3 に偏りがちになってしまう。これが 4 段階評価だと少しずれるが。

(会長)

- ・ 満足度は積み上がってどんどん良くなっていくものでもないだろう。

(委員)

- ・ 市民全体の環境意識の状態を聞くのではなく、自らの環境意識を聞かれているのであれば、自分を振り返って回答するので、それを集めれば市民の平均値となるのかもしれないが。

(会長)

- ・ わかりにくいという意見なので、再度検討していただきたい。

(事務局)

- ・ 今回のアンケート調査では、環境に対する「満足度」と「重要度」をそれぞれ5段階評価で聞いており、「満足度」の値は、「満足」＋「やや満足」を『満足』という括りで束ね、「やや不満」＋「不満」を『不満』という括りで束ね、それをもとにして「満足度」を算出している。一方、「重要度」も同様に5段階評価で聞き、同様の計算方法で「重要度」を算出し、両方の算定値を用いて「ニーズ得点」という指標（P18の上の散布図下の計算式による）による換算値が今回調査の場合3.33という数値になっている。
- ・ 数年後に同様のアンケートを実施し、『満足』の割合がもし5%増加すれば、このニーズ得点が3.39になるような方式としている。
- ・ 今回の満足度5%アップが目標値として適切かどうかという別の議論はあるにしても、今回の指標値はこのような計算結果によるものであり、他市町のアンケート調査でもこの方式で算出し評価に使っている場合が多い。
- ・ ただ、指標値の計算方法が複雑なので、目標値の3.39だけをみても目標値の意味がわかりにくいのは確か。％を100に換算するような方法も含めて、今後、この指標設定について検討したい。

(委員)

- ・ 重点プロジェクトの中の「生ごみ堆肥化システムの普及促進」の目標であるシステム参加世帯数が9,500世帯では目標数値として非常に低く、現実に則した数値になりすぎているのではないかと。最近5年間の増加世帯数が450世帯ほどであり、それを加味されて修正されていると思うが、もう少し目標をあげた方が、今まで取り組みされている方の励みにもなり、取り組みの継続にも繋がるだろう。最低1万世帯にはしたいところだ。

(会長)

- ・ 企業であれば責任問題もあるので現実的な目標を設定するが、自治体の目標であり、達成できないかもしれないが、高めの目標を掲げることで、みんなの関心を集めて市民が努力して、目標に近づくという効果も期待できるのではないかと。

(委員)

- ・ 目標数字が高いか低いかは別にして、今後人口が減少する中で、目標をきっちり設定してPDCAで毎年進行管理を行うとすると、身動きが取れなくなることも考えられ、大変ではないのか。

(事務局)

- ・ 計画を立てて終わりではなく、目標に近づけるためにも、PDCA で進行管理をすることは最低限必要であると思っている。ただ、現実的な目標も堅実でいいが、意識啓発も含めて高めの目標を設定することも必要だと思うので、数値については再検討したいと考えている。

(委員)

- ・ 具体的な方法はあるのか。

(事務局)

- ・ 取り組みが進まない要因についての分析が必要であろう。例えば、周辺部では自分の家で堆肥化しており、堆肥化システムの取り組みの必要がないところも多い。一方で、団地など、必要なところに周知啓発していくことは重要であると思うので、そういった分析を進め、地道に増やしていくことが大切であると考えている。

(委員)

- ・ アンケート調査で明らかになった、取り組みができない理由をひとつずつクリアしていくのもひとつの手であろう。地域により環境が違うので、決まった方法を押し付けるのではなく、柔軟に対応する必要があるだろう。
- ・ もう少し高い目標を設定して、意識をあげることも重要である。

(会長)

- ・ 他にご意見があれば。

(委員)

- ・ クールチョイスの推進については、いつ頃にアンケートを予定しているのか。

(事務局)

- ・ まず来週のエコフェスタで実施を予定しているが、参加者は環境に関心のある層が多いと思われるので、その他では商業施設等に協力いただき、一般客を対象にしたアンケート調査を行うことも考えている。

(委員)

- ・ クールチョイスの一般の認知度はかなり低いだろう。クールチョイスのロゴマークを見せて、認知度を聞くという方法も考えられる。

(事務局)

- ・ 事務局としても認知度はかなり低いと予想しているが、アンケートをすることが啓発にもつながるのではないかと考えている。

- ・ クールチョイスについて、目標値としてはどれくらいまで上げればいいのかという点について、ご意見があればお願いしたい。

(委員)

- ・ 国も推進しているので、出来るだけ高く設定した方がいいのではないか。子どもたちの中でも浸透しつつある。

(委員)

- ・ アンケート結果をみないことには何とも言えない。

(事務局)

- ・ クールチョイスは国を挙げての取り組みであることも踏まえて目標値を設定したい。

(委員)

- ・ せめて3人に1人くらいは知っていてほしいと思うが。

(会長)

- ・ 皆さんのご意見をひとつの参考としていただければいいのではと考える。

(委員)

- ・ 脚注等の説明文で誤字があるので、再度見直しをお願いしたい。(P1「海面(界面)の上昇」、P8「アルコール発酵(発行)、メタン発酵(発行)」、P10「環境経済社会発展調和」、P11「推移(水位)を平準化」等)
- ・ また、CO<sub>2</sub>の表記はCO<sub>2</sub>に統一したほうがいだろう。
- ・ P12の信楽高原鐵道の「鐵道」表記も本文と凡例で違うので統一すべき。
- ・ P13のコミュニティバスの単位の間違いを確認していただきたい。(縦軸 十万人 → 千人)
- ・ P20の文中の「緑のカーテンの普及(を)行いました」、「環境保全(協定)の締結も」でも文字が欠けているので、( )書き部分の言葉を追加して欲しい。
- ・ 資料4の16ページ苦情受付件数の合計値が合わないが。

(会長)

- ・ 誤字脱字については事務局で再度チェックしていただきたい。また、何度も見ていると見逃しがちなので、委員の方からも新たな目で見てください、ご指摘いただけるとありがたい。

(委員)

- ・ 32ページにあげられている「環境野外活動」という言葉は教育現場では使わないので、「自然体験活動」の方がいいのではないか。地域環境学習は子どもが実際に行う具体的な学習を指し、学校では全体を含めて環境学習を推進・充実するので、「学校での環境教育の推進【地域

環境学習、自然体験活動、保護者への啓発】とした方がふさわしいのではないか。

(会長)

- ・ 他に修正事項に関連したご意見がなければ、最後に、計画全体を見渡していただき、お気づきの点があればご意見をいただきたい。

(委員)

- ・ 13 ページのコミュニティバスの年間乗客数の推移のグラフであるが、H23 年の数字が 23 ページの数字と違っている。

(会長)

- ・ 22 ページの「生き物がすみつく川にしよう」の中で、河川除草回数を評価基準として掲げているが、河川の除草は生物にとって必ずしもいいことではない。例えば、ホタルの生育にとっては、少なくとも特定の時期の除草はしないほうが良いといったことがある。

(委員)

- ・ 全体を見た場合、前半は一般的なスタイルの計画となっているが、28 ページから、手裏剣風のマークが書かれ、フォントも変わっているが、これは甲賀市ならではの狙いがあるのか。

(事務局)

- ・ 最終的にはわかりやすい基本計画にしたいといいながら、内容が難しくなりつつあるので、わかりやすい概要版の作成を考えている。28 ページ以降が市として伝えたいところではあるので、全体を見直して統一を図りたい。

(会長)

- ・ 途中でデザインや表記の調子が変わるので、全体的な統一性という意味で、これでいいのかどうかと思う。全体の統一性と甲賀市の独自部分をどうするのが難しい。主張するという意味ではこれでもいいかもしれないが、若干、違和感を感じることもある。少なくとも「其の一」は「その一」の方がいいだろう。

(事務局)

- ・ 2 ページにも書かれている「甲賀の國づくりプロジェクト」という総合戦略の中で、市として忍者に絡むアイテムや装飾的なフォントなどを積極的に活用することを謳っている。
- ・ ただ、今年度中に策定する総合計画等他の計画との整合性もあるので、関係部局と調整をしながら統一を図りたい。

(委員)

- ・ 概要版などリーフレットの的なものであれば、そういった手裏剣などが描かれていても楽しいと

は思うが。

(委員)

- ・ 環境面からみると忍者のイメージは違和感がある。市の花であるササユリなど、環境面における甲賀市ならではのものをロゴ風に取り入れる方がいいのではないか。
- ・ 30 ページからの基本方針に基づく取り組みの表記のインパクトが弱いので、レイアウト的にもう少し大きくなるか。

(会長)

- ・ 32 ページが広く空いているので、カットなど工夫してはどうか。

(委員)

- ・ 近年では災害ゴミが問題になっている。甲賀市でも大規模災害が起こる可能性があるので、この計画に入れるべきかどうかはわからないが、議論の余地はあるのでは。

(事務局)

- ・ 市で策定している地域防災計画の中には「災害ゴミ対策」が記載されており、災害に伴う廃棄物についてはその中で記載しているので、環境基本計画に含めるのは少し違うと考えている。

(会長)

- ・ 入っていてもかまわないと思うが、切り分けも必要。含めるかどうかの検討をしていただければありがたい。

(委員)

- ・ 34 ページの家庭ごみのリサイクル率が 25.7%となっているが、家庭から出るゴミを全て含めての数字なのか。可燃ゴミは衛生センターのプラントで燃やしていると思うが、それもリサイクルに含まれているのか。

(会長)

- ・ 燃やしているものはリサイクルではない。ビン、缶、ペットボトル等を収集しリサイクルしているものが対象となっている。スーパーに持っていかれるトレイなどは含まれていない。

(委員)

- ・ 甲賀市の環境概要に掲示されている数字と同じものなのか。

(事務局)

- ・ 環境概要の数値は回収量です。基本計画の 34 ページのリサイクル率は、回収したごみをリサイクルセンターに持ち込み、破碎、選別後リサイクルできた実数で算定しているため、環境概

要の数値で算定するとイコールではないが、ほぼ近いものになっている。

(会長)

- ・ 表紙のサンプル案が3つ提示されているので、ご意見があれば。
- ・ 要素が違うので単純には比較できないが、参考までに1番良いと思ったものに手を上げて頂き、選択の参考にしていただく。

＜結果＞1案 4票

2案 1票

3案 2票

- ・ 1案の写真の川に大きな石があるが、これは何百年に1度の洪水の際に上流から流れてここまでたどり着いたものである。ということは、災害は必ず起こるということで、それを頭に置いて置かなければいけない。

## (2) 甲賀市の環境概要について

### (会長)

- ・ 環境の測定結果と活動報告となっているが、何かご意見があればお願いしたい。
- ・ 私からは、水質の結果のほかに、一般的には排水規制違反の工場の数などが掲載されている場合もあるが、排水規制違反の統計はないのか。工場の川への排水規制はどこが行っているのか。

### (委員)

- ・ 基本的には県であるが、指導したものについては、市にもその都度県から連絡を行っている。
- ・ ただ、具体的な内容は公表できないが、指導件数や項目であれば公表しても問題ないかと思う。市の立場であれば、工場との協定に基づく水質検査を独自にやっているかどうかであろう。

### (事務局)

- ・ 工業団地内の工場については多くが公共下水道に接続されているので、水質汚濁防止法の規制対象にはならない。

### (委員)

- ・ 汚水は下水につながっているが、冷却水を下水に流すと料金が跳ね上がってしまうので、冷却水は川に流しているところが大半であり、問題になることがある。

### (事務局)

- ・ 県と一緒に年間 20 箇所ほどの事業所に立ち入り調査を行っているが、大半は書類上の不備である。

### (会長)

- ・ 少なくともそういった業務をされているのであれば、その報告が環境概要に入っているのもいいのではないかと。
- ・ どこでもそうだが、大腸菌群数がオーバーしているのも、そもそも大腸菌群数という測定方法がいいのか悪いのかという議論もあり、環境省も変更を検討しているが、いつもオーバーしているという報告だけでいいのかという点も考える必要があると思う。小さな川の場合は大体オーバーしている場合が多い。
- ・ 何か、この環境概要の部分について、お気づきの点があれば発言願いたい。
- ・ 特になければ、報告・審議事項に関しては、これで終わり、事務局から今後の予定について報告をお願いしたい。

#### 4 今後の予定

##### (事務局)

- ・ 今日のご意見を反映したものを作成して最終版として修正した上で、再度、各委員に確認させてもらうことになる。
- ・ この審議会には諮問という形を取らせてもらっているので、審議会から市長に答申という形で報告していただくことになる。目処としては11月中に答申をしていただく形で進めたい。また、答申の後は、庁内関係課に最終確認した上で、12月の定例議会で説明をすることになる。その後、1月～2月頃にパブリックコメントを実施（第2次甲賀市総合計画のパブリックコメントの実施時期と調整）し、3月には最終計画書として確定していきたい。3月には第4回目の審議会を開催する予定としたい。

##### (会長)

- ・ 今後、さらにこの素案をみていただいて、何かお気づきの点があれば個別に事務局に連絡をお願いしたい。では、他に意見がなければこれで終了とします。ありがとうございました。

<閉会>

12：00 終了